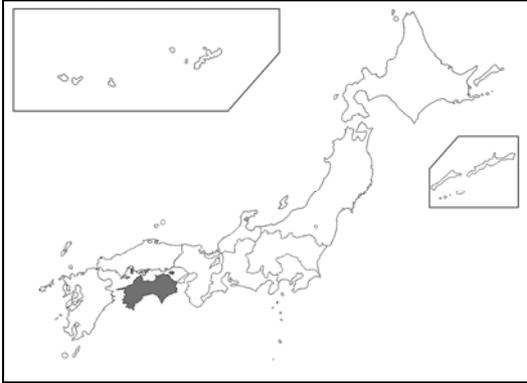


(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はこのところ減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

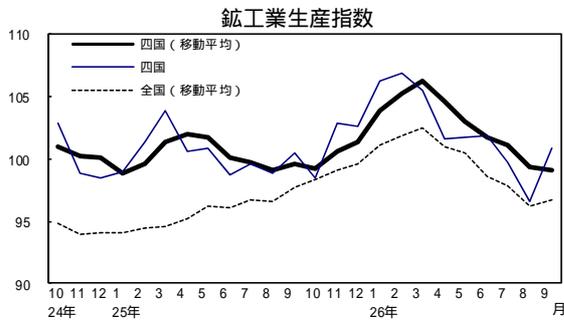
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	このところ減少している
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる
雇用情勢	着実に改善	改善

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ減少している。

7～9月期には、化学は、触媒等で減少した。電気機械は、需要が堅調なことから光電変換素子等で増加した。食料品は、年末需要に向けての積み増し等で、冷凍調理食品等で増加した。はん用・生産用機械は、海外向けの需要が減少したこと等により、化学繊維機械等で減少した。非鉄金属は、生産工程の都合等により電気銅等で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
化学	22.9	11.8	7.8	8.9	4.3	5.6
電気機械	15.8	4.5	4.8	4.2	3.2	2.5
食料品	10.5	3.4	3.9	0.4	3.0	3.1
はん用・生産用機械	10.0	3.2	16.7	9.2	32.4	34.8
非鉄金属	8.0	2.5	3.2	0.5	2.4	4.9
鉱工業	100.0	4.2	2.7	2.2	3.1	4.3

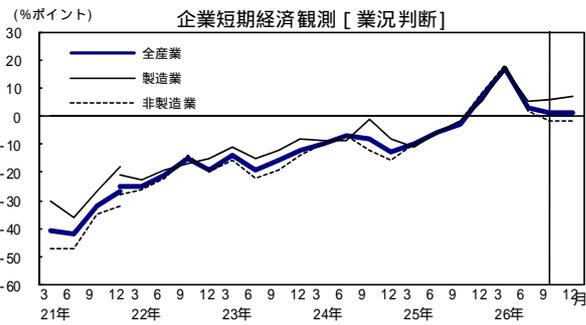
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。

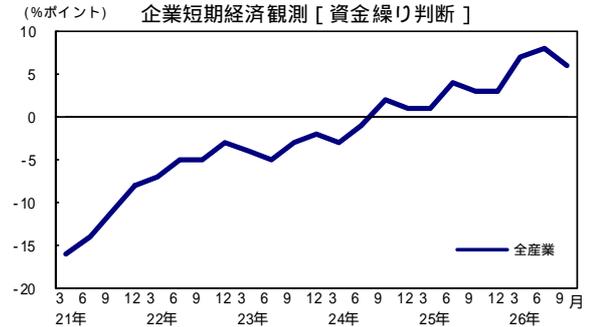
(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

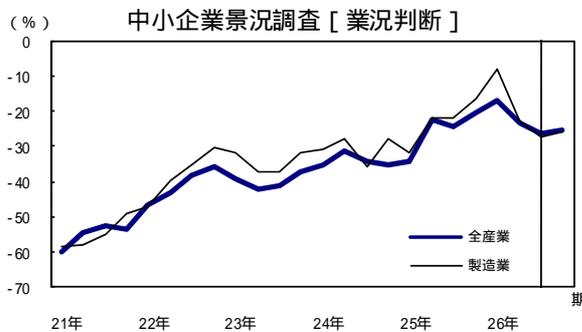
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

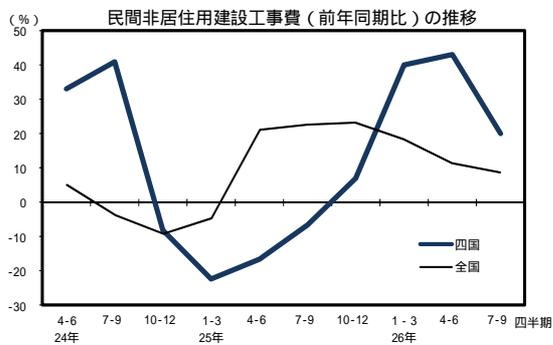


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「電力会社による太陽光発電の買い取りが保留になって、大変大きな痛手になっている。受注残でなんとか維持しているが、新規の受注がないため、景気は悪くなると判断する(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度計画
全産業	7.8	4.1(5.7)
製造業	4.3	16.8(9.0)
非製造業	11.6	8.6(1.8)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.4%増、8月は同1.0%減、9月は同1.3%増となった。

大型小売店販売額

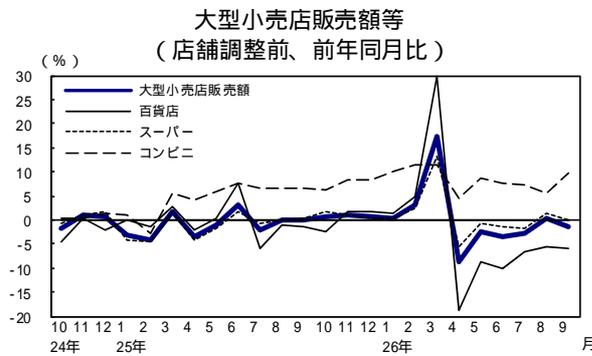
百貨店は、7月は、前年に比べ梅雨明けが遅く気温が低めに推移したことにより、夏物セールが苦戦したことや、店舗数が減少した影響等から前年を下回った。8月は、台風接近などの天候不順から客足に影響がみられたことに加え、夏物セールが苦戦したこと等から前年を下回った。9月は、前年に比べ日曜日が1日少なかったことに加え、高額商品が低調であったこと等から前年を下回った。

スーパーは、気温が低めに推移したことに加え、衣料品等が低調であったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、41.5となり前月より5.0ポイント低下した。

「週末の人通りは多いが、売上は低調である。今夏まで堅調だったシニア層の消費は、秋頃から勢いが落ちている。外国人観光客が増えているので、その消費を取り込む策を地域全体で考えなければならない(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

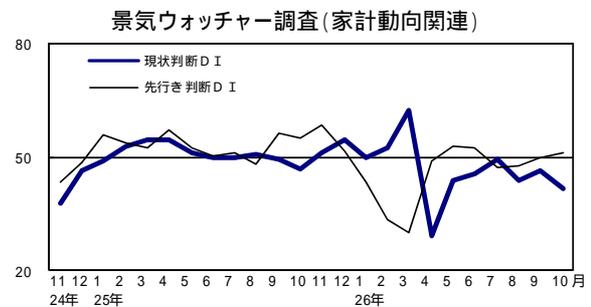
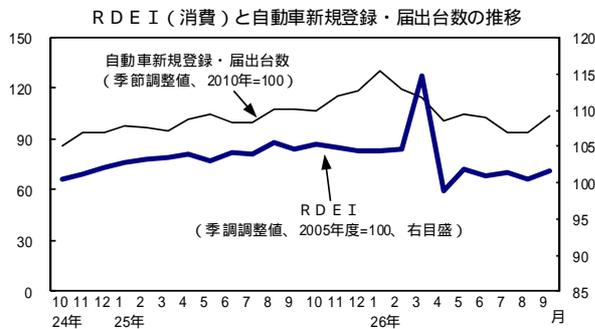


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.6	0.4	1.0	1.3
大型小売店(*2)	1.4	2.9	0.2	1.2
百貨店(*2)	6.0	6.4	5.6	5.8
スーパー(*2)	0.1	1.8	1.5	0.0
コンビニ(*2)	7.4	7.4	5.5	9.6
乗用車(*3)	7.1	6.2	13.1	3.7
(季節調整値)(*3)	5.4	8.1	0.4	10.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

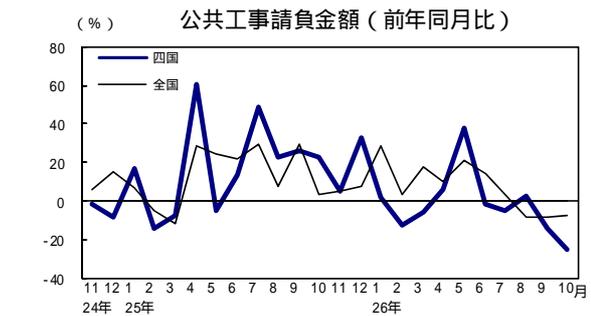
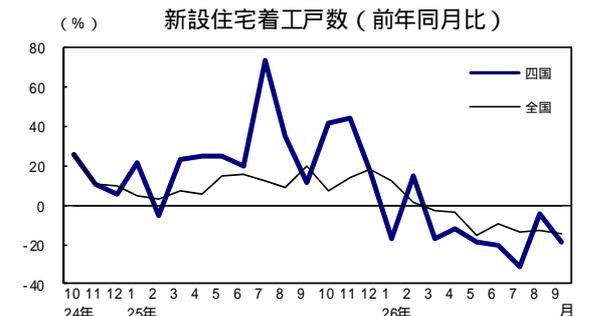
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

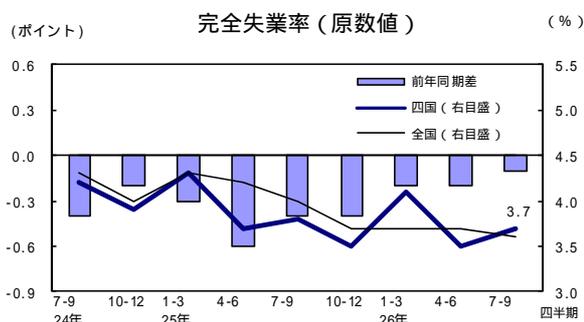
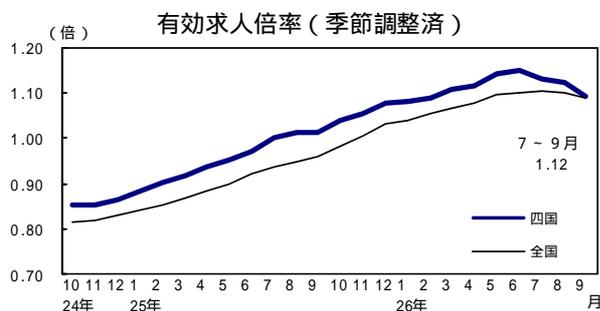


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

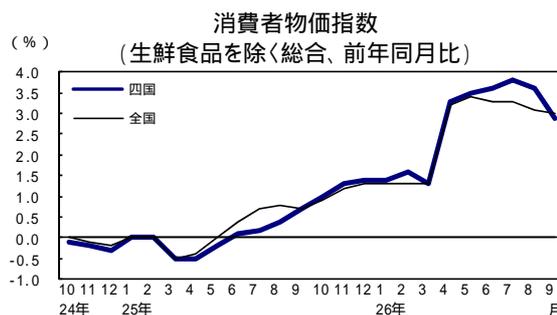
「製造業の仕事が減少しており、求人数も少ない。在庫を抱えたくない企業が多く、求人の変動が激しい (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	35	49	58	48	17
(前年比)	49.3	18.3	9.4	9.1	41.7
負債総額	96	121	164	159	23
(前年比)	38.2	18.3	33.0	128.5	32.6



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 2週続けて週末に来襲した台風の影響から、旅行を控えたり、修学旅行のキャンセルも多く、売上は大きく落ち込んだ (旅行代理店)

<先行き>

- ・ 11~12月は一年で一番売れる時期なので、売上、利益ともに上昇する (パルプ・紙・紙加工品製造業)

